

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四 八〇一三
京都市中京区蛸薬師通河原町東入
電話 (〇七五) 二五三・〇七〇七

『揺れる情(こころ)』通信③⑧

稲荷山武田病院院長 土屋宣之／元京都医療センター外科部長
今回は入院中のFさんとの絶対忘れられない繋がりをご紹介します。

Fさんとの間には深い情(こころ)のつながりが生まれていました。そしてFさんは充実した毎日を過ごしていました。そのうち残念ながら病状が進行し衰弱が始まりました。最期が近いとお互いに思うようになりました。「生前遺言」も書き終わりました。だんだんとしんどさが増し、もうすぐ意識が遠のくかもしれないと思い、頑張つて二泊二日の外泊もし、ご家族、お孫さんたちとお別れも済ませました。

このころは毎朝訪室しますと笑顔で「先生、まだ生きています。まだお迎えが来ません」と言つて首を傾げていました。私も「そんな心配はいりませんよ。もうすぐ、きはりますから」と言つて、お互い笑っていました。

《昏るに、日はのこりて》

田村佐起三

『上大阪町／木屋町ビル(元本社ビル)』

平成9(1997)年、不動産仲介社から「木屋町の知人が相続税を払えず、絡んだ蜘蛛巣から助けて欲しい」と相談され聞いてみると、平成4年新築から3カ月でビル所有者が他界。建物の相続税が24億円、相談を繰り返しているうちに人とお金が絡まってしまつたそう、現地見学すると地下駐車場は水没しており、とても手に負えそうにないのでお断りしました。然し「このビルを解決出来るのは木屋町出生のあなただけ」と説得され、交渉に入り、大和銀行(現りそな銀行)の支店長と一緒に解決を目指しました。

決済日は銀行の部屋全部を貸切り各債権者と決済、弊社故常務と故馬場茂人支店長(当時)は実印を握りしめて対応し無事終了しました。後日ビルの相続者と面談し「さきぞうさんのお陰で、これから安心して眠れます」との言葉を賜りました。

《時の流れの中で》

常楽臺住職 今小路覚真

一九六〇年代、一九七〇年代の日米安保条約の改定に反対する運動の中核にあつたのは大学生でした。しかし忘れてならないのは、その大学生達を支えていたのは多くの高校生達でした。大学生や勤労者に交じつて、機動隊と対峙し、血を流しながらデモを支えていた一部が高校生でした。

でも話題の中心は常に大学生であり、京大、東大をはじめ、全国の大学のほとんどはデモで暮れていました。高校生が話題にのぼることはありませんでした。高橋生が話題にのぼることはありませんでした。まして当時の文部省が、そうした高校生の在学している学校に対して「教育の中立」などという位置づけをするといったことは皆無でした。

右も左もそうでしたが、政治の世界も一見荒れた世評の中でそれなりの分別を、余裕を持っていたのです。時の流れの中で、レンズの焦点が絞られるような狭い社会になっています。宗教界も安閑とはしておられません。

《中国ワインの考察》

イタシヨク 福村直

フランスのブルゴーニュをはじめ多くのブランドワインが高騰を続けていますが、これから注目を集めるだろうと考えられるのは中国産ワインです。世界にとつて中国ワインは馴染みが無くむしろ無名に思えますが、その点が現在投機対象として利点になります。

ワイン造りに必要な3点の内、最も重要な点は土壌と気候です。中国は広大な土地を所有していることから、探せば何処かに理想的な場所を見つけることが出来ます。次は栽培・醸造技術と経験です。こちらは醸造コンサルタントを有名生産地から招くことによりクリアできます。最後は醸造設備となりますが、こちらでもヨーロッパから輸入することで解決できます。

必要となるのは生産したワインの売り先ですが、これは中国国内に大きな市場を抱えています。国内で循環させることによりワイナリーは成長を遂げ、国外へ本格的に輸出された際には既に高級ワインとして地位を確立していると考察します。

健康レシピ

栄養士 國松美也子

《8月レシピ》

ナスの豚バラ巻き(2人分)

材料：ナス2本、大葉4枚、豚バラ8枚
合わせ調味料：醤油大さじ2、みりん大さじ1、砂糖大さじ1、酒大さじ1/2

①ナスはヘタを取り、縦に四等分切る。大葉も縦に半分にする。

②ナスに大葉をのせ豚肉で全体を巻けるように端からぐるりと巻いていく。

③フライパンに油を少々ひき、②を並べ中火で焼く。お肉に少し焼き色がついたら蓋をしてナスまで火を通す。

④ナスに火が通れば、合わせ調味料を入れて味を絡める。

※調味料の量はお好みで加減してください。合わせ調味料はまとめて多めに作れば照り焼きなどに使えます！

《大原流声明雑話③⑦》

實光院住職 天納玄雄

『妙法蓮華経』にまつわる声明曲に「法華讃嘆」というものがある。七五調の和文体で書かれた詞章は、行基菩薩の作とも、光明皇后の作ともいわれる。古くから伝承されている曲で、法華経第五卷の提婆達多品という章から題材を取ったものである。

法華経を 我が得しことは 薪こり

菜摘み水汲み仕えてぞ得し

提婆達多品の冒頭では釈尊の前世譚が明かされる。かつて国王としての生を享けた時には、あまねく人々を救う真理を求めて出家した。そうして阿私という仙人の従者として修行の日々を過ごす中で、薪を拾い、野の果物を摘み、水を汲んで食事を整えることで師によく仕えた。その献身が認められて法華経の真髓を授かることができ、今世において悟りをひらく遠因となった。この国王は自分(釈尊)であり、阿私の生まれ変わりが提婆達多であるのだ。という内容である。